

科目名	思想文化論B						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	文化学部	配当年次	2 年次	単位数	2 単位
教員名	藤高 和輝						

授業概要／Course outline

本講義では、ジェンダーやセクシュアリティといった性にまつわる理論を紹介・解説します。私たちは、「男は男らしく」「女は女らしく」、「異性愛が自然で当たり前だ」といった見方が「常識」という形をとった偏見・差別・規範がまだまだ根強い社会を生きています。本講義では、そのようなジェンダー規範や異性愛規範を批判的に考える理論を紹介し、受講者各自がこの社会の規範を批判的に読み解く力を養うことを目標とします。具体的には、アメリカ合衆国を中心とした「フェミニズム／クィア理論」について概説していきます。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・ ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））
- ・ オンデマンド動画による授業がある。

授業内容・授業計画／Course description・plan

1. イントロダクション
 2. 「個人的なものは政治的である」——第二波フェミニズムとは何か
 3. 「女とは〈他者〉である」——ボーヴォワールの『第二の性』
 4. シャドウ・ワーク——マルクス主義フェミニズムの挑戦（1）
 5. シャドウ・ワーク——マルクス主義フェミニズムの挑戦（2）
 6. インターセクショナリティ——ブラック・フェミニズムからの問いかけ
 7. サバルタンは語ることができるか——スピヴァクのポストコロニアル・フェミニズム
 8. 中間テスト
 9. エイズ危機からクィア理論へ
 10. 「なる」ものとしてのジェンダー——ボーヴォワールからバトラーへ
 11. 「セックスはつねにすでにジェンダーである」——ウィティッグとバトラー
 12. 「男社会」とは何か——セジウィックのホモソーシャル理論
 13. トランスとフェミニズム／クィア
 14. 期末テスト
- ★オンデマンド これまでのまとめ

事前・事後学修／Preparation and assignments

※事前学習は各授業2時間、事後学習も各授業2時間必要です。下記の内容を確認して、しっかりと事前・事後学修を行うようにしてください。

【事前学習】

第1回～第14回：各回のテーマに関して調べる。

【事後学習】

第1回～第14回：講義で配布した資料や、授業中に紹介した文献を読んで、授業内容の振り返りを行う。

授業の到達目標／Expected outcome

ジェンダーやセクシュアリティに関する現代の理論を紹介し、また、近年の社会問題や 이슈を適宜題材にします。ジェンダーやセクシュアリティをめぐる現代の事象を批判的に読み解くリテラシーや思考力を身につけることが本授業の到達目標です。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- ・ 思考力
 - ・ 幅広い教養
- 専門知識・専門技能
【文化学部 国際文化学科】
・ 人文学に関する知識

履修上の注意／Special notes, cautions

毎回、授業後にコメントペーパーの提出を行います。意欲的なコメントは積極的に評価します。	
評価方法／Evaluation	
期末テスト（50％）、中間テスト（50％）とします。	
教 材／Text and materials	
とくに、教科書はありませんが、講義中に資料を配布したり、授業内容に関連する書籍を推薦します。	
質問や相談の方法／Instructor contact	
藤高（kazukin@cc.kyoto-su.ac.jp）までご連絡ください。	
その他／Others	
適宜、個別の相談を受け付けます。	